

沖縄振興計画

沖縄県総合交通体系基本計画

沖縄県社会資本整備計画
沖縄県広域道路整備基本計画
都市計画区域マスタープラン

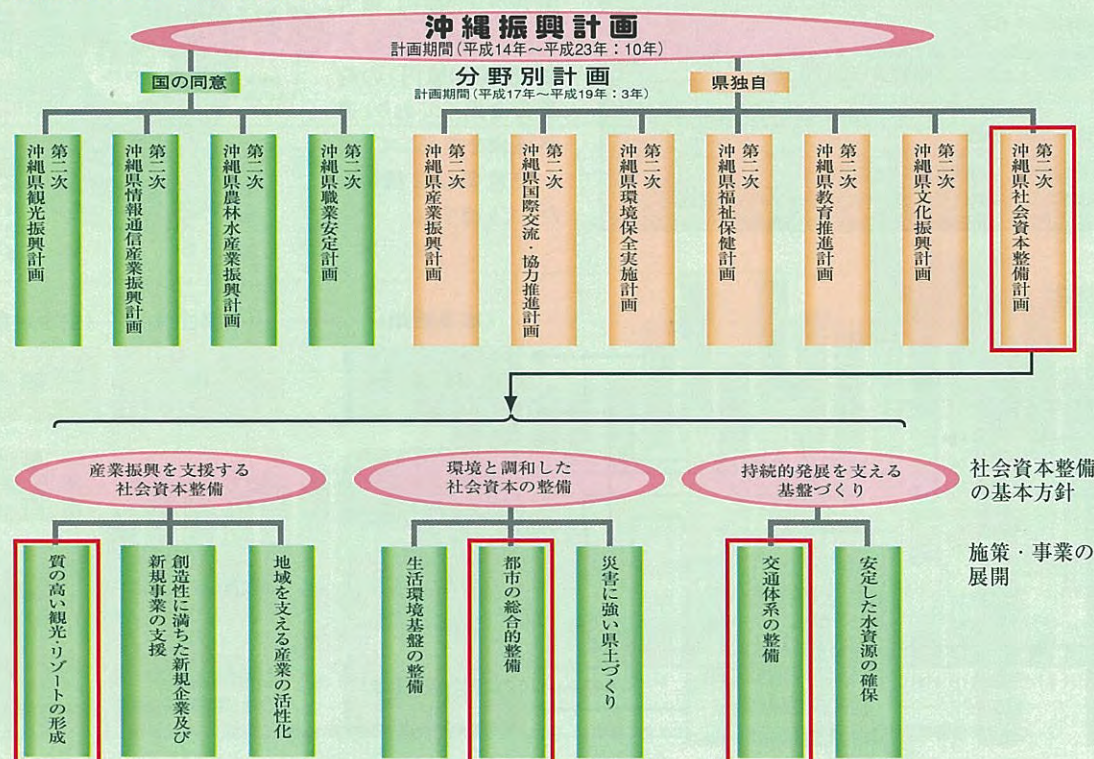
道路の整備に関するプログラム
渋滞対策プログラム
都市圏交通円滑化総合計画

沖縄振興計画 (平成14年度～23年度)

1. 沖縄振興計画 沖縄の特性を積極的に生かしつつ、自立的発展の基礎条件を整備し、豊かな地域社会を形成するとともに、我が国ひいてはアジア・太平洋地域の社会経済及び文化の発展に寄与する特色ある地域として整備を図り、平和で安らぎと活力のある沖縄県を実現することを目標としています。
(平成14年度～23年度)



2. 沖縄振興のための計画体系



第2次沖縄県社会資本整備計画 (平成17年度～19年度)

陸上交通 (施策の方向)

国際性・拠点性を高め、新たな活力を生み出し、地域の魅力を支えるとともに、環境負荷が少なく快適で安全に暮らせる交通体系を確立します。

施策の展開

- 空港・港湾へのアクセス道路、市町村間を結ぶ道路、離島架橋など県内外との連携・交流を支える道路整備を推進します。
- 都市部において、放射道路や環状道路等の体系的な道路網の整備を推進するとともに、沖縄都市モノレールの整備及び交通結節点の整備等を推進します。
- 交通需要マネジメント等のハード・ソフト施策の連携により総合的な交通渋滞対策を推進します。
- 電線類地中化、バリアフリー化、ITSの活用、環境負荷の軽減等を進めるとともに、周辺地域の景観に配慮した歩行者空間の整備を図ります。

指標	単位	平成13年度(基準年)	平成17年度(実績)	平成19年度(6年後)	平成23年度(10年後)
生活の中心となる都市までの30分以内安定到達率※ ¹	%	62.5(H14)	63.7	65.7	—
道路渋滞による損失時間(県道以上)※ ¹	百万人時間/年	62(H14)	—	59	—
〃(渋滞モニタリング区間)※ ¹	百万人時間/年	23.4(H14)	48.7	22.2	—
道路交通における死傷事故率※ ¹	件/億台キロ	69.3(H14)	75.8	62.4	—
県管理国道・県道の改良延長※ ²	km	1,011	1,060	1,064	1,110
市街地1km当たりの街路整備延長※ ²	km	2.5	2.6	2.7	2.8
モノレール利用客数※ ²	人/日	0	34,275	35,000	39,000
道路の歩道整備延長※ ²	km	1,731	1,964	2,047	2,269

資料:※¹印の指標は「沖縄における道路行政の達成度報告書/業績計画書」による主なアウトカム指標
※²印の指標は「平成18年度施策評価」による指標

ビジョン1 連携・交流を支える道づくり

- ①那覇空港や那覇港などの空港・港湾へのアクセス道路整備と物流の効率化を図る幹線道路の整備。
- ②那覇・沖縄・名護の各中核都市の拠点性向上を支援するアクセス道路の整備。
- ③市町村間を結ぶ道路整備を行うと共に離島架橋など離島間の地域振興を促す道路整備。

ビジョン2 都市交通の円滑化を図る道づくり

- ①分かりやすい骨格となる道路網を形成し、都市内の通過交通を削減するためのバイパスや環状道路の整備。
- ②右折レーンの設置など既存ストックを活用して余裕ある車線確保や交差点改良などによる渋滞の緩和。
- ③沖縄都市モノレールやバスを利用したパークアンドライドなどのTDM施策やITSの導入の検討。

ビジョン3 観光への支援と環境に配慮した道づくり

- ①観光客に対する空港・港湾や観光地までの分かりやすい案内とアクセス性の向上。
- ②亜熱帯を感じることができる道路植栽と沿道の環境に配慮したアメニティ空間の創出。
- ③自然環境への変化を最小限にとどめるなど沿道の動植物に配慮した道路整備。
- ④騒音などの沿道環境負荷を軽減する道路整備。



ビジョン4 安心して安全な暮らしを支える道づくり

- ①交通弱者も安心して利用できる歩行空間のバリアフリー化や幅広歩道など歩行者や自転車に優しい道路整備。
- ②ドライバー・歩行者などに対してITSを活用した情報提供。
- ③強風や豪雨・自然災害時に安全に移動できる道路空間の確保。
- ④離島・過疎地域における医療福祉などの日常生活や地域振興を支援する道路整備。
- ⑤あんしん歩行エリア内等における交通事故の減少。



ビジョン5 個性豊かな地域の創出を支える道づくり

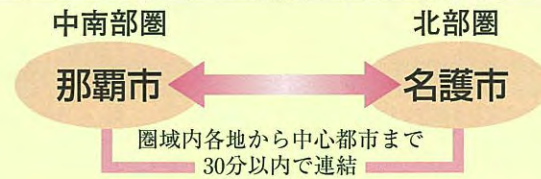
- ①街や地方などの地域の活性化に資する道路整備。
- ②既存の道路空間を有効に活用したコミュニティ道路などたまり空間の整備。
- ③住宅地を中心とした既存市街地の秩序ある整備と、周辺と一体となった米軍基地跡地の市街地形成を支援する道路整備。
- ④電線類地中化などにより道路の無電中化を図り、快適な道路空間を確保。



沖縄県広域道路整備基本計画

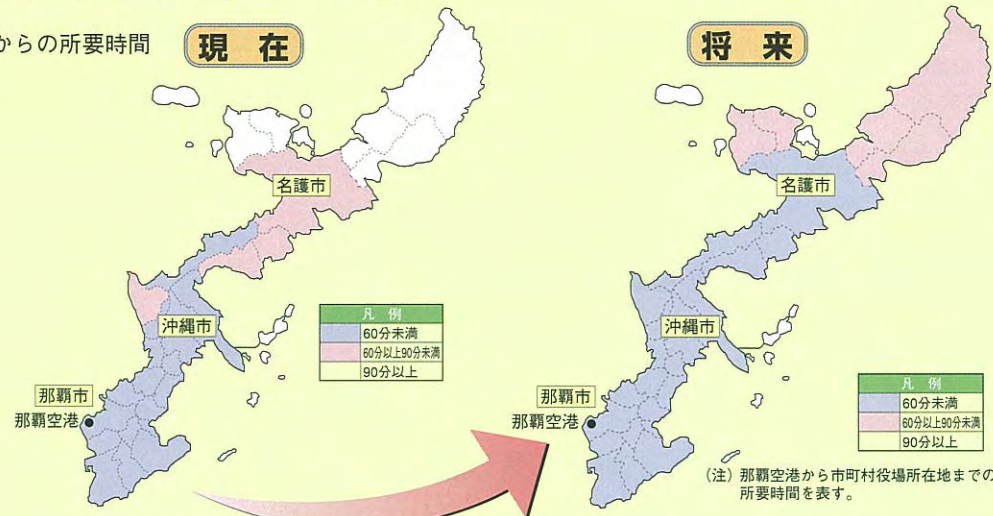
沖縄県は、活力ある地域づくりを推進し、豊かさとりある生活を実現していくため、中長期的視点から、地域構造を強化し各種地域活性化施策を支援するために必要な、高規格幹線道路（沖縄自動車道、那覇空港自動車道）と一体的に機能する広域的な幹線道路網に関する今後の整備計画として、沖縄県広域道路整備基本計画を策定しました。

本計画は、地域整備や道路整備の目標及び基本方針を定めた「沖縄県広域道路整備の基本方針」と、これをネットワークとして示した「沖縄県広域道路網マスタープラン」から構成されます。「平成5年12月22日公表」



沖縄県広域道路整備の基本方針

■那覇空港からの所要時間



沖縄県広域道路網マスタープラン

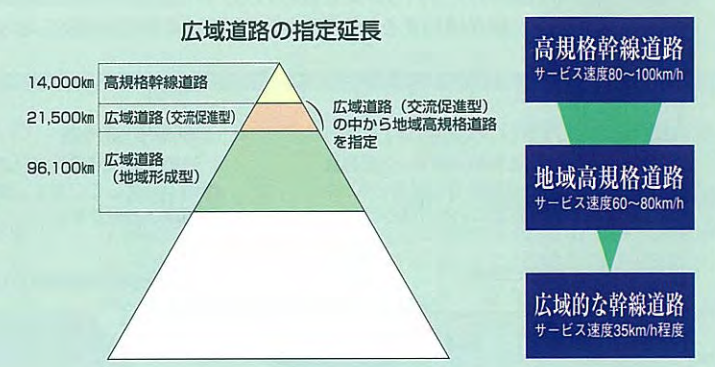


※この図は今後の道路整備のマスタープランであり、具体的な路線ルート、位置などを規定するものではありません。

凡例		
路線表示区分	指示方法	備考
高規格幹線道路	IC	・併用及び整備計画区間
	□□□□	・基本計画及び予定路線区間
広域道路	—	・本線のトラフィック機能確保のため、整備の目標として特に構造上の強化を図ろうとする道路
広域道路	—	・沿道からのアクセス性に配慮した道路
検討区間	□□□□	・路線構造について今後検討する区間

高規格幹線道路

高規格幹線道路は、全国的な自動車交通網を形成する自動車専用道路です。昭和62年6月道路審議会答申に基づき6月30日に建設大臣により、国土開発幹線自動車道等(11,520km)及び一般国道自動車専用道路2,480km(本州四国連絡道路約180kmを含む)を合わせ21世紀初頭の完成をめざして、14,000kmの高規格幹線道路網の整備を進める予定となっています。



地域高規格道路

地域高規格道路とは、全国的な高規格幹線道路網と一体となって、通勤圏の拡大や都市と農山村地域との連携の強化等による地域集積圏の拡大(連携機能)、高規格幹線道路を補完し、物質の流通、人の交流の活発化を促す地域集積圏間の交流を図り(交流機能)、

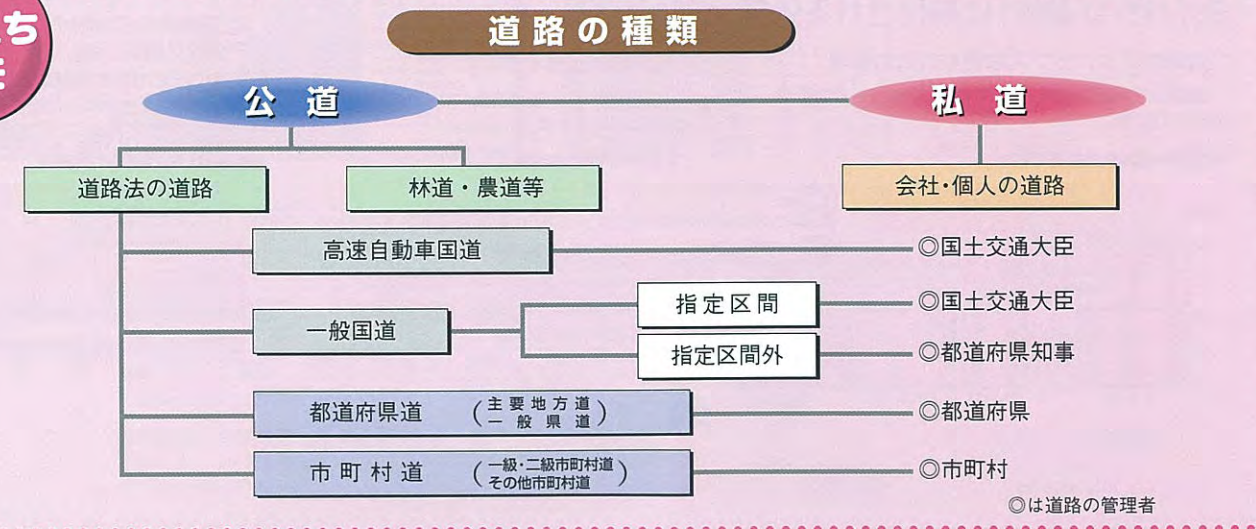
空港・港湾等の広域交流拠点や地域開発拠点等との連絡(連結機能)を図るための道路であり、自動車専用道路またはこれと同程度の機能を有し、高速サービスを提供できる道路として整備します。



地域高規格道路

- ①連携機能 (combination)
 - ・核都市と農山村地域をはじめとする周辺地域が連携した広域的な地域・都市構造の形成を図る。
- ②交流機能 (communication)
 - ・さまざまな地域間との活発な交流が可能となる多角的ネットワークの形成を図る。
- ③連結機能 (connection)
 - ・国際的、全国的な交流を図るため、空港等の広域交通機能との効率的なネットワークの形成を図る。

ひとくちメモ



道路の計画

道路の計画

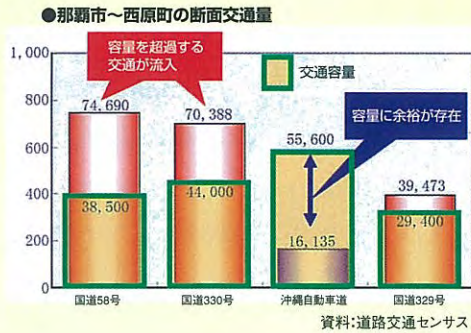
ハシゴ道路の構築

沖縄県における「道路のアンバランスな使われ方」や「那覇都市圏の深刻な交通渋滞」、「東西分断により沖縄自動車道ICへのアクセス性の低下」等の交通問題を解消するために「ハシゴ道路」の整備を推進します。

1.現状と課題

○道路のアンバランスな使われ方

沖縄県を縦貫する幹線道路は、交通容量を超過する交通を処理するのに対して、沖縄自動車道は交通容量に余裕があります。



○深刻な交通渋滞

沖縄県の渋滞損失時間の約6割が那覇都市圏で発生しています。道路による抜本的な対策が必要です。



○米軍基地による地域分断

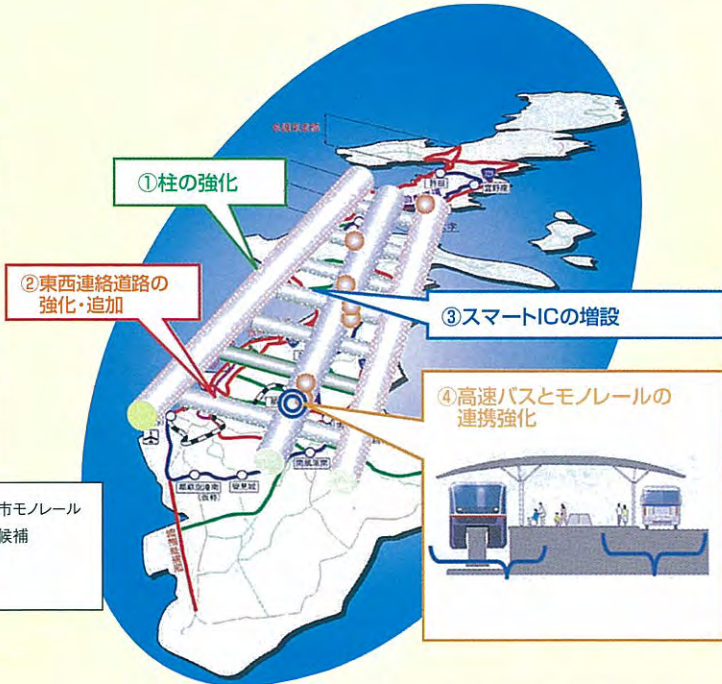
基地などによる地域分断から高速道路の利便性が低下しています。新規ICの整備等による高速道路の利用促進が重要です。



2.『ハシゴ道路』の整備計画

○4つの要素を基本に『ハシゴ道路』の整備を実施

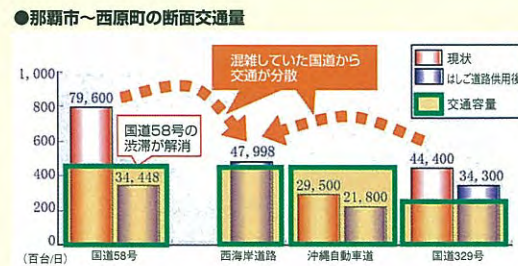
- ①南北を走る強固な「3本の柱」～国道58号(西海岸道路を含む)、国道329号
- ②柱を支える「東西連絡道路」～基地跡地の活用～
- ③高速を使いやすくするICの増設～スマートICの整備～
- ④モノレールと高速バスの連携～シームレスな乗り換えの実現～



3.『ハシゴ道路』に期待される効果

○道路のアンバランスな使われ方の解消

国道58号等に集中していた南北方向の交通需要が分散されます。



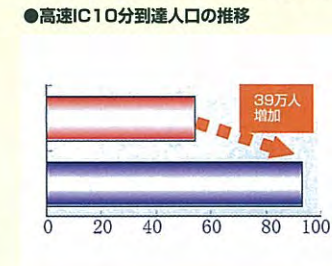
○深刻な交通渋滞

交通渋滞による渋滞損失時間が4割削減できます。



○高速道路のICまでのアクセス時間短縮

高速ICまでの所要時間の短縮により、高速道路の利便性が向上します。(高速ICまで10分で到着できる人口が39万人増加)



道路の整備

1.高規格幹線道路

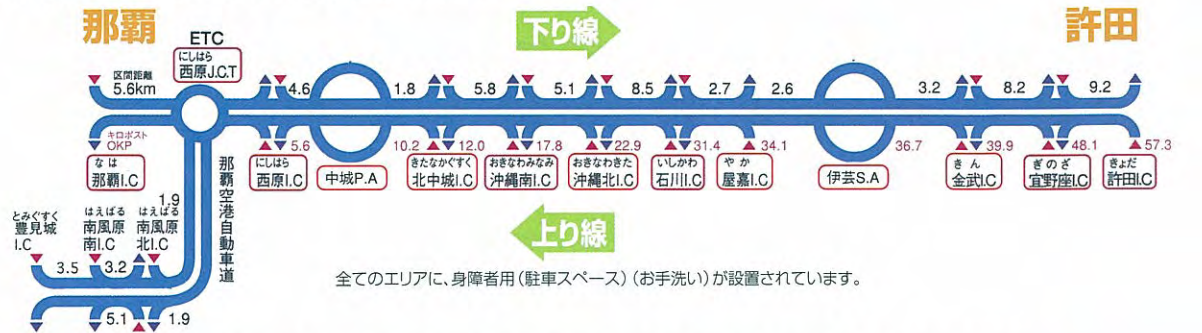
沖縄自動車道(高速自動車国道)

沖縄自動車道は、沖縄振興開発計画に基づき、本島の中南部都市圏と北部の名護市とを結ぶ自動車専用道路として計画されました。

名護市からうるま市までの北部区間29.5kmは、沖縄海洋博覧会が開かれた昭和50年に一般有料道路として開通しました。また、うるま市から那覇市までの南伸道31.4kmは、高速自動車道として、昭和62年10月8日に供用

を開始し、併せて北部区間が高速自動車国道に編入されました。

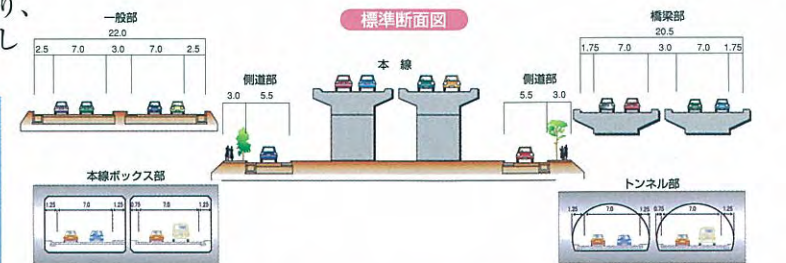
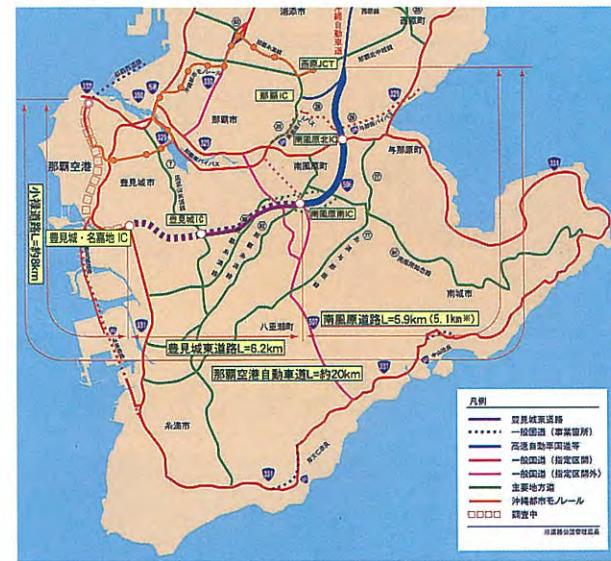
沖縄自動車道は南北間における輸送時間の短縮、通過交通と域内交通の分離及び国道58号を始めとする現道の交通混雑の緩和、交通事故の減少や広域生活圏形成の促進、生活環境の改善などに大きく寄与しています。



那覇空港自動車道(一般国道の自動車専用道路(国道506号))

那覇空港自動車道は、那覇空港と沖縄自動車道を結ぶ道路として、昭和62年6月に指定された一般国道の自動車専用道路です。

現在、豊見城東道路の豊見城ICまでが供用されており、平成19年度末には豊見城・名嘉地ICまでの供用を目指して整備中であります。



事業名	延長	連結位置	連結道路名	連結施設名
南風原道路	5.9km	西原町字池田	沖縄自動車道	西原J.C.T
		南風原町字与那覇	国道329号	南風原北I.C
		南風原町字山川	国道507号BP	南風原南I.C
豊見城東道路	6.2km	豊見城市字平良	県道7号	豊見城I.C
		豊見城市字名嘉地	国道331号	豊見城・名嘉地I.C
小楢道路(調査中)				

事業の経緯	南風原道路(延長5.9km)	豊見城東道路(延長6.2km)	小楢道路(延長約8km)
高規格幹線道路指定	S 6 2 . 6 . 3 0	S 6 2 . 6 . 3 0	S 6 2 . 6 . 3 0
基本計画決定	H 1 . 8 . 8	H 1 . 8 . 8	
都市計画決定	H 2 . 7 . 1 7	H 2 . 7 . 1 7	
整備計画決定	H 2 . 1 1 . 1	H 2 . 1 1 . 1	
事業開始	S 6 3 年度	H 3 年度	
用地買収着手	H 2 年度	H 5 年度	
工事着手	H 4 年度	H 8 年度	
完成供用(予定)	H 1 2 . 6 . 2 8 供用	H 1 9 年度予定(全線暫定供用)	2 1 世紀初頭

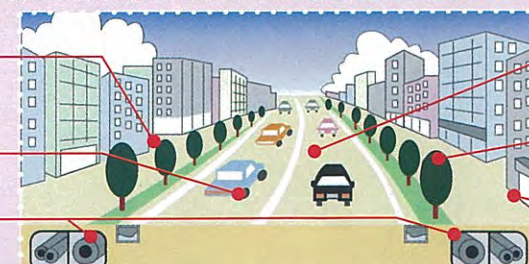
ひとくちメモ

道路のはたらき <道路は私たちの暮らしに欠かせないさまざまな機能を持っています。>

アクセス機能
(土地や建物への出入サービス)

トラフィック機能
(自動車、自転車の通行サービス)

公共施設の収容機能
(電気・ガス・上下水道・通信さらに地下鉄・地下街の収容)



防災空間機能
(火災延焼防止スペース災害時の避難路)

生活環境保全機能
(快適な歩行空間、街並、にぎわいを演出)

土地利用誘導機能
(計画的市街地の形成、地域開発の誘導)

2.地域高規格道路

沖縄西海岸道路(連結機能)

読谷村から糸満市に至る延長約50kmの道路であり、高規格幹線道路である那覇空港自動車道と那覇空港、那覇港といった広域交通拠点を相互に連絡します。

名護東道路(連結機能)

名護市街地から同市許田に至る延長8kmの道路であり、高規格幹線道路である沖縄自動車道と、総合保養地整備法に基づく重点整備地区5地区を有する観光リゾート地、北部圏の中心都市である名護市が相互に連絡されます。

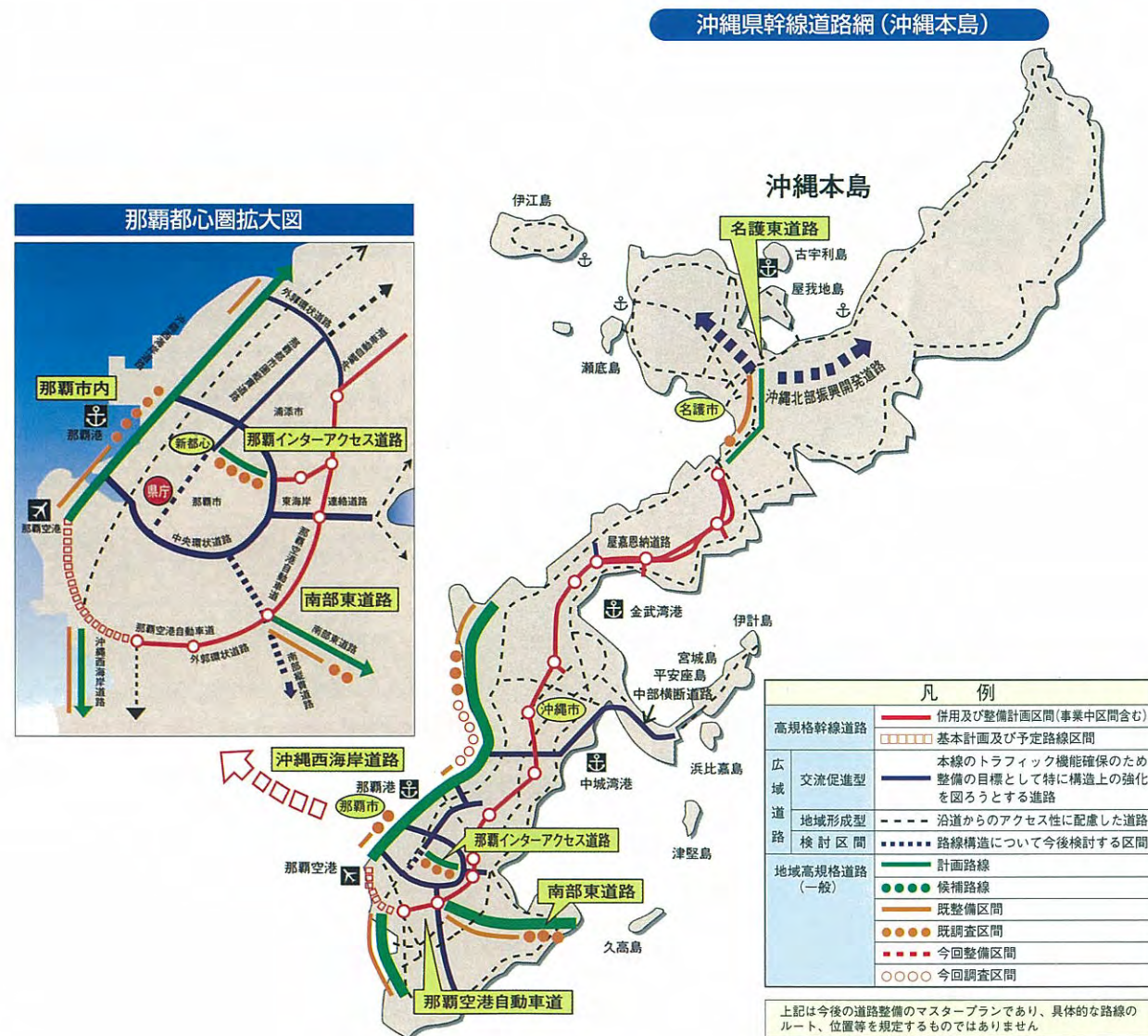
南部東道路(連携機能)

南風原町から南城市に至る延長約12kmの道路であり、総合保養地整備法に基づく重点整備地区(地区名称:サザンビーチリゾート)に指定されている南部東地域と現在整備促進中の高規格幹線道路那覇空港自動車道が相互に連絡されます。

那覇インターアクセス道路(連結機能)

沖縄自動車道那覇ICから那覇都心に至る道路であり、高規格幹線道路である沖縄自動車道と那覇都心を連絡します。

道路の整備



南部東道路



南部東道路は、南城市知念・佐敷・玉城・大里から南風原町を經由して、那覇空港自動車道に連結する地域高規格道路であり、定時・定速を確保し、那覇市までの30分圏の確立を図り、地域住民に都市的サービスを提供するとともに、行動圏の拡大を図り、南部圏域の振興を支援する道路です。

計画概要

計画区間：南風原町～南城市
 計画路線指定：平成6年12月
 調査区間指定：平成9年9月
 整備区間指定：平成18年3月
 整備区間延長：約8km
 整備区間：南風原町字山川～南城市玉城字垣花
 道路規格：第3種第2級(設計速度60km/h)

南部東道路の整備効果

観光振興

南部東道路の整備によって・・・

観光地間のアクセス向上が期待できます。
 例えば、斎場御嶽から首里城までピーク時まで約22分の短縮が見込まれます。



産業振興

南部東道路の整備によって・・・

混雑緩和に伴う那覇空港までの物流の効率化が期待できます。これを渋滞損失額に換算すると、その削減量は、年間約78億円になります。また、空港までの30分圏域の人口は、約1.2万人増加します。



医療支援

南部東道路の整備によって・・・

医療施設までの迅速な搬送が期待できます。地域(約6.7万人)短縮効果が見込まれ、南城市知念支所から県立南部医療センター・こども医療センターまでピーク時で約20分の短縮が見込まれます。



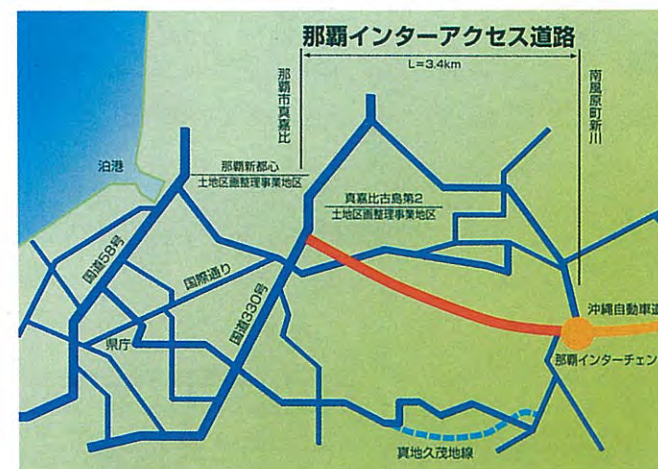
沿道環境

南部東道路の整備によって・・・

現道の沿道環境の改善が期待できます。例えば車の排出ガスであるCO₂、NO_x、SPMが年間あたりそれぞれ約7955t、29t、3tの削減が見込まれます。



那覇インターアクセス道路



那覇インターアクセス道路は、沖縄自動車道・那覇インターチェンジから那覇都心に至る、延長3.4kmの道路です。高規格道路である沖縄自動車道と那覇都心を連絡することにより、中南部圏の中心都市としての那覇市の拠点機能が高まるとともに、北部圏と中南部圏相互の交流を促進する道路として期待されています。

計画概要

事業計画区間：那覇市真嘉比～南風原新川
 計画延長：L=3.4km
 道路規格：第2種1級
 計画幅員：18.75m

道路の整備